

全道一の人参産地・音更町

～ 新たな産地化の取り組み ～



概要

十勝の広大な大地、その中でも音更町は、管内一の農地面積を有します。この大きな農地で、小麦、豆类、甜菜、馬鈴薯を基幹とした作付けを行い、大型機械を十分に生かした大規模な農業を展開しています。特に小麦の作付面積は、約7,400ha (H21)で、これは、札幌ドームの1,340個分にあたり、日本一の作付面積を誇ります。

戸当たりの経営面積が増加する中、省力化しながら収益の向上を図るために、JAおとふけでは、人参の産地づくりに取り組み、軌道に乗っています。

このような人参の取り組みや他作物の収量・品質の向上を支えているのが、実は、暗きょや除れきなど、農業農村整備で行う農地の整備なのです。

産地の特徴

戸当たりの経営面積が増加するなか、機械化・省力化を前提として、産地形成に取り組んでいます。また、様々な工夫をしていますが、大まかには、以下の特徴があります。

【畑を厳選】

人参を作付けする畑ごとに、土壌診断を行うと共に、実際に畑を見ただうで、人参の作付けに適している畑を厳選しています。

【作業を分担】

- 種まき : JAが建設関連業者に委託して専用機械で実施。
- 収穫と輸送 : 同上。収穫から1時間以内に選果場に搬入。
- 他の作業 : 播種前作業、防除などの畑管理を農家が実施。

➡ 高品質も確保!



種まき



収穫

整備

厳選する畑の条件

- ・水はけが良い
- ・土中の石が少ない

- ・暗きょ
- ・除れき

【暗きょ】
土中に管を設置、水はけ向上。



S46-H21まで6000ha整備
音更町農地2万1千haの約30%

【除れき】
機械で土中の石を振り、取り除きます。

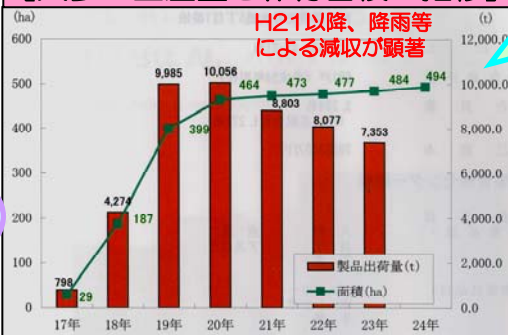


H8-H21まで200ha整備

効果

暗きょや除れき等の農地の整備により、収量・品質の向上と共に、降雨時においても計画的な農作業を行える条件が整いました。

【人参の生産量と作付面積の推移】



輪作体系の関係で今後は作付面積増は困難なため、より品質の高いA品比率を高める必要があります。

より良い畑を厳選

美味しい商品開発も!



★現在、音更町管内で実施している道営の農地の整備事業

- 美蔓高倉地区 (工期H23-28)
 - ・・・ 暗きょ200ha、除れき16haなど
- 音更西高台地区 (工期H24-31)
 - ・・・ 暗きょ256ha、除れき8haなど